



がんとともに生きる時代

生涯でおよそ2人に1人ががんになると言われ、がんは決して他人ごとではない時代です。ほとんどのがんは早期のうちには自覚症状がありませんが、早期に発見すれば90%以上が治ると言われています。

胃がん・大腸がん検診

【問合せ】保健課

☎773-66011

胃がんとは

胃がんは、胃壁の内側にあがる粘膜にできるがんです。通常、早期では症状はありませんが、進行すると胃（みぞおち）の痛み・不快感、胸やけ、吐き気、食欲不振や、胃から出血することによる貧血や黒い便などの症状が出てきます。

胃がんはまだ多い疾病

喫煙や塩分の多い食品の摂取など、生活習慣によって胃がんの発生率が高まるといわれています。患者数は50代ごろから増加し、男性では1番目に、女性では3番目に多いがんです。

大腸がんとは

大腸の粘膜にできるがんです。通常、早期では症状はありません。進行すると血便や便通異常（便秘や下痢、血便）、腹痛などの症状が出てきます。大腸がんは増えている

食生活の欧米化や高齢化、飲酒や喫煙により、年々増えています。患者数は30代前半から増加し、男性では3番目、女性では2番目に多く、身近ながんの一つといえます。

精密検査の内容

胃がん・大腸がんの精密検査では、内視鏡検査を行います。先端に小型のカメラを搭載した細長い管を、胃がん検査では口か鼻から、大腸がん検査では肛門から挿入し、胃や大腸などの消化器官を観察します。

どちらのがんも診断方法と治療方法が向上し、早期発見により治る確率が上がります。

早期のがんでは、内視鏡下で切除する方法も行われています。

住民健診の胃がん・大腸がん検診結果

(年度)	胃がん検診			大腸がん検診		
	平成29	平成30	令和1	平成29	平成30	令和1
受診者数(人)	3,768	3,750	3,602	6,568	6,570	6,509
要精密検査者数(人)	147	180	140	456	386	358
精密検査受診率(%)	85.7	90.0	91.4	81.8	78.8	84.6

家族ががんになったら……

がんになった家族への接し方が、がんを診断されたすべての人が、がんになったからといって気を使つてもらう・励ましてもらうことを望んでいるわけではないかもしれません。まずは、本人の考えや思いを理解することが大切です。

情報とうまく付き合う

がんの種類や進行度によって状態はさまざまで、病状や治療方法など多くの情報があふれています。その情報が本人に当てはまるかどうかなど、主治医に相談し、不安を解決しましょう。

家族は自分自身も大切に

家族は、がんになった本人と同じように精神的負担がかかる「第二の患者」ともいわれています。本人をサポートするためにも、家族自身も自分をいたわりましょう。悩んだ時は一人や家族だけで抱え込まず、まずは治療している病院に相談しましょう。

県内にはがん相談支援センターが設置されています。治療や療養生活全般などについて

て相談することができます。新潟県ウェブサイト(「がん相談支援センター」で検索)をご覧ください。

9月から使用する
県障の受給者証を送付します

【問合せ】
福祉課 障がい福祉係
☎773-6667

重度心身障害者医療費助成(県障)の新しい受給者証を、対象者へ8月下旬ごろ送付します。9月1日(火)からご利用ください。

重度心身障害者医療費助成(県障)とは

身体障害者手帳1級〜3級、療育手帳A、精神障害者保健福祉手帳1級、いずれかの交付がある人に新潟県が医療費助成を行う制度です。

助成を受けるには所得制限があります。詳しくは、お問い合わせください。

